

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成25年5月23日 (2013.5.23)

【公表番号】特表2011-504932(P2011-504932A)

【公表日】平成23年2月17日 (2011.2.17)

【年通号数】公開・登録公報2011-007

【出願番号】特願2010-536148(P2010-536148)

【国際特許分類】

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 P 37/04 (2006.01)

A 6 1 K 35/14 (2006.01)

A 6 1 K 31/405 (2006.01)

A 6 1 K 33/30 (2006.01)

A 6 1 K 39/00 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 31/00 (2006.01)

A 6 1 P 3/02 (2006.01)

A 6 1 P 17/02 (2006.01)

A 6 1 P 31/18 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 37/02

A 6 1 P 37/04

A 6 1 K 35/14 Z

A 6 1 K 31/405

A 6 1 K 33/30

A 6 1 K 39/00 A

A 6 1 P 43/00 1 2 1

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 31/00

A 6 1 P 3/02

A 6 1 P 17/02

A 6 1 P 31/18

【手続補正書】

【提出日】平成25年4月2日 (2013.4.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

アポトーシスから防御される T リンパ球を *ex vivo* で作製する方法であって、T リンパ球を *ex vivo* で有効量の一次細胞由来バイオリジックと接触させて、T リンパ球をアポトーシスから防御することを含み、該一次細胞由来バイオリジックは、インターロイキン 1 ( I L - 1 )、インターロイキン 2 ( I L - 2 )、インターロイキン 6 ( I L - 6 )、インターロイキン 8 ( I L - 8 )、腫瘍壊死因子 ( T N F - α ) 及びインターフェロン ( I F N - γ ) を含むことを特徴とする、前記方法。

**【請求項 2】**

前記Ｔリンパ球は、一次血液由来Ｔリンパ球である、請求項 1 に記載の方法。

**【請求項 3】**

前記Ｔリンパ球は、ＣＤ４＋である、請求項 1 又は 2 に記載の方法。

**【請求項 4】**

前記Ｔリンパ球は、ＣＤ８＋である、請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の方法。

**【請求項 5】**

前記一次細胞由来バイオロジックは、４－アミノキノン抗生物質の持続的存在下、及び、ミトゲンの持続的又はパルス化した存在とともに調製されることによって取得することができる、請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載の方法。

**【請求項 6】**

前記ミトゲンは、フィトヘマグルチニン（ＰＨＡ）である、請求項 5 に記載の方法。

**【請求項 7】**

前記一次細胞由来バイオロジックは、さらに、顆粒球マクロファージコロニー刺激因子（ＧＭ－ＣＳＦ）及び果粒球コロニー刺激因子（Ｇ－ＣＳＦ）を含む、請求項 1 ～ 6 のいずれかに記載の方法。

**【請求項 8】**

前記 1 ～ 7 のいずれかに記載の方法に従って作製されるＴリンパ球。

**【請求項 9】**

請求項 8 に記載のＴリンパ球の細胞防御的がん療法における使用。